



ちょっとそこまで ~お散歩日和 (植物編)~



晩秋秀色 (カリン・皇帝ダリア・ピラカンサ・クマナツ・ヤマボウシ)



カリンの実です。5号棟北側の駐車場脇に、金色に輝く実がいくつも光っています。第1団地の方に、「トイレに置いておくと良い香りがするよ。1個持って行きな。」と言われたのですが、遠慮しました。



皇帝ダリアです。確かに、植物学的にはダリアの仲間なのでしょうが、咲く時期もその大きさも葉の付き方も、いろいろと違いが多過ぎます。しかし、20cm以上もある花も、6mを優に超える背丈も、

皇帝の名にふさわしい気はします。学名が「*Dahlia imperialis*」なので、そのまま訳したのでしょうか。嬉しいことに全ての花が下向きに咲くので、その美しい姿を楽しめるのは、桜の花のそれと似ています。それに、開花の期間も1つ1つの花が10日程度と長いので、見逃すということもありません。

長年この花の世話を下さっている方にお話を聞くと、9号棟の南側に植栽していたけれど、風に弱く、うまく育たなくて苦労したとのことでした。あれこれ試行錯誤の末、10号棟と11号棟の間に、ちょうど風よけにもなり、日当たりも程良い安住の地を見出したのだそうです。ご苦労様です。

9号棟の南にも立ち寄ったところ、1本の株がささやかな花を咲かせていました。



銀杏通りが一気に色付きました。目を見張るほどの美しさとはこういう光景を言うのでしょうか。思わずいろいろな角度でシャッターを押してしまいました。この銀杏通信が届く頃には、丸裸になっているかもしれません。一気に冬がやってきます。



9号棟の南にピラカンサの実が色付いています。まるで小さなカキの実です。美味しそうですが、小鳥たちは今の時期、ほとんど口にしようとはしません。

調べてみると、有毒なタンニンを含むため食用にならないそうです。しかし、霜に当たって毒性が弱くなった頃、言い換えると、木の実がぐんと減ってきた頃、ツグミ、ムクドリ、オナガ、ヒヨドリ、メジロ、ジョウビタキ、シロハラ、カワラヒワなど多数の野鳥がついばみ始めます。そして、これらの糞によって種子が拡散されることになるのだそうです。自らの価値が高まる時をじっと待つ、なかなか賢い植物だなと思います。

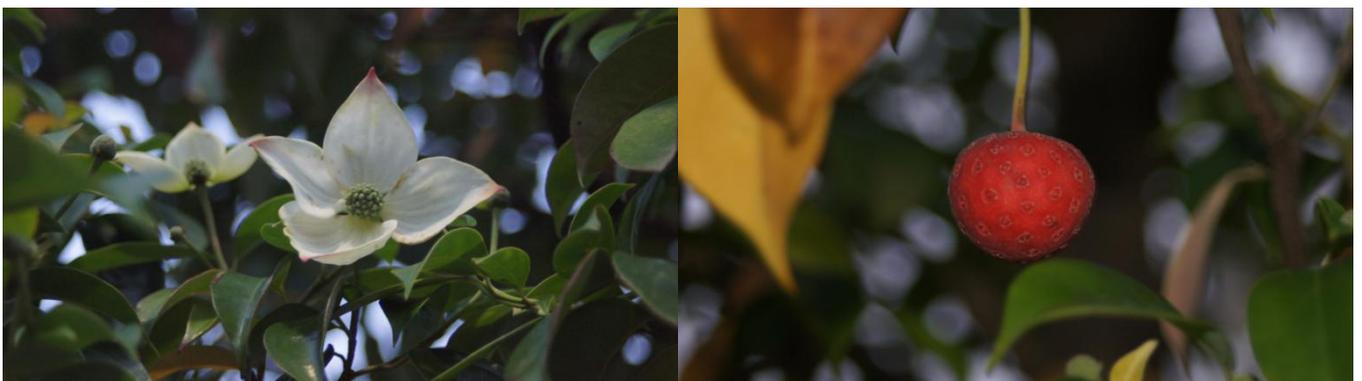


集会室前に、芝桜が白い花を咲かせています。本来は春先に咲く花ですが、小春日和に誘われたのでしょうか。それとも、お世話されている方々が、今夏、挿し芽をせっせと行ってくださったので、ちょうど根付いたことを知らせてくれたのでしょうか。もしもそうなら、まるで頑張ったご褒美のようです。



芝桜の隣りに、クチナシが赤黄色の果実を付けています。果実は液果で、長さ約2cmの長楕円形をしています。側面にははっきりした5～7本の稜が突き出ており、先端には6個の萼片が針状に付いたまま残っています。この実の中には100個ほどの種子が入っています。

ちなみに、この実を乾燥させて漢方薬にしたり、黄色の色素として染物や食材に使ったりします。



近くの民家の庭先に、ヤマボウシの花と実が同時に付いていました。ヤマボウシと聞いても、多くの人はびんと来ないと思いますが、一青窠で大ヒットしたハナミズキの仲間だと言えば、何となくイメージしやすいと思います。

とは言え、ハナミズキに比較すると開花時期が遅く、葉が出たあとに枝先に開花するので華やかさは少ないかもしれません。しかし、例えば、光が丘図書館の東側の緑地帯に咲くヤマボウシは、樹木全体を白い花が覆うので、それはそれは見応えのある姿です。それに、タイサンボクのように、同じく梅雨時に咲く花でも、雨に打たれると痛んでしまう花と違って、花木としての価値は高い存在に思います。

花のように見えるのは本来の花弁ではなく、ハナミズキと同様、総苞片（花のつけ根の葉）です。

それにしても、今の時期に、実はともかく、花も同時に楽しめるとは思っていませんでした。



これも近くの民家で発見したものです。巨大な鬼柚子、または獅子柚子の実です。何とも仰々しい名前ですが、普通の柚子の10個分ぐらいはありそうです。グレープフルーツだと2〜3個分の大きさで、小玉スイカぐらいは優にあらうかと思えるほどの存在感です。それが、木全体にたわわに実っているのですから凄いことです。思わず立ち止まってなんじゃこりゃあと叫んでしまいそうになります。

名前に柚子と付いていますが、柚子ではありません。文旦（ぶんとん：ザボンとも言う）の仲間です。大きさの割に軽く、これは表皮と果肉の間はかなり厚く白い綿状のものが詰まっています。果肉が小さいためです。香りはグレープフルーツです。

食すよりも、実が大きいことから「実入りが大きい」などと言って縁起物として人気があります。切ったりしなければ長期間しなびることがないので、店先に飾る方も多いそうです。



これも近隣の住宅の庭先で見付けました。とても華やかで目を引く花なので、何と言う名前なのか気になって、調べるのに時間が随分かかりました。

知人から、「今はスマホで写真を撮影すると、すぐに花の名前を教えてくれるアプリがあるよ。」と教えられたのですが、スマホを持っていない身には成す術がありません。とにかく旧態依然の方法で調べまくるだけです。

この花は「アンデスの乙女」の名前で園芸店に並んでいますが、正確には「ハナセンナ」、または「カッシア」と言います。「インカの輝き」という名前もあるのですが、違いがよく分かりません。

草丈は2mほどになり、成長も早いので、庭植えにしていると場所を取り過ぎて扱いに困るのではないかと思います。しかし、枝先に花を付けるので、邪魔に思う部分はどんどん剪定をしていけば、場所も収まるし、花芽もより多く付くしということで解決しそうです。それに、剪定して切り落とした枝先をずぼずぼと土に挿しておくと、次々にそこに根が付き、気が付けば、秋の庭を一気に黄色に染めることも可能となります。

面白いのは、オジギソウのように、夜になると葉っぱが閉じるという動きのある植物だということです。どこか愛おしさが感じられるはずです。

今後、じわじわと人気が出て広がっていくような予感がします。

(終)